

# 校長室から

令和2年11月26日

## 呼びかけること 話し合うこと

本校では、毎年11月に仙台市全体で実施している「いじめ防止 きずなキャンペーン」期間に、学校生活アンケートとは別に、話し合い活動を全学年で行っています。学級活動の時間や道徳の授業をとおして、「差別と偏見について」「他者の長所や良いところに目をむけることについて」「思いやりについて」等、様々な工夫をこらし実施しています。

11月20日（金）の6校時には、生徒会長のS・Sさんが、放送による全校生徒への呼びかけを行い、その後、「新型コロナウイルスに関する差別やいじめの実態について」全クラスで学習を深めました。最終的には、いじめ防止についての行動目標を作成し、「長中きずな宣言」を改訂していこうというものです。

下記の文章は全校に向けて発信されたS・Sさんの心のこもったすばらしい意見表明です。

**みなさん、こんにちは 生徒会長のS・Sです。**

**今回の授業は、いじめ防止きずなキャンペーンの一環として、新型コロナウイルスに関する差別やいじめの実態についての学習をしていきたいと思えます。最近では各地域の初めての感染者やそのご家族がSNSなどでの誹謗中傷により、精神的苦痛を伴ってしまったという残念なニュースが入りました。現代社会ではインターネットというとても便利なものの誤った使い方によって、簡単に人を傷つけることができてしまいます。また自分の意志とは裏腹に相手に不快な思いをさせてしまうこともあります。これは携帯電話やスマートフォンなどの通信機器を持っている人、誰もが加害者になる可能性があるということです。リスクは0ではありません。**

**みなさんの学校生活を今一度見直してください。誰かを傷つける言動をしていませんか。悪ふざけがエスカレートしていませんか。SNSでの隠れたトラブルはありませんか。相手が嫌だと感じたら、それはもういじめです。いじめられた側の傷は大きく、深く心に残ります。そんな卑劣な行為が長中で起こらないよう、今回は先日の授業で考えた自分の考えをもとに、各クラスでのいじめ防止のための行動宣言を作ってもらいます。そしてみなさんの行動宣言を集め、生徒会執行部が新たに長中のいじめ防止きずな宣言を改定したいと考えています。新型コロナウイルスという見えない敵と戦っている中で、私たち自身が人を傷つけてしまってはいけません。今後の生活の中で大切になってくる行動宣言です。一人一人がいじめと向き合い、身近なものとして考え、どう行動していくべきか考えましょう。**

学級での話し合いや生徒会からの呼びかけ等をとおして、何かを創り出したり、変えていこうとしたりすることは、時間が掛かり、手間が掛かることでもあります。しかし、このように丁寧に、話し合ったり、意見を発表したり、人の意見に耳を傾けたりという過程は、たとえすぐに行動に移せなくても、自分たちの進むべき指標となり、正しい事が正しいと認められる雰囲気醸成されていくきっかけとなります。行動に移せるまでは時間はかかったとしても、自分を変えていこうとする心が育まれ、行動が変わっていく事にもつながります。それが行動目標という事でもあります。結果だけではなく、プロセスを大切にするという事はとても大きな意味があることでもあります。このように丁寧に物事を進めながら合意形成していくというプロセスが今の世界には足りないと思うのです。1つの枠組みを時間を掛けてつくり、みんなが意識して生活していこうとする事はとても尊いことであり、若い世代が中心となり何かを発信することはとても素晴らしいと思えます。